

1 幼稚園の教育目標

- ・ 仏教精神に基づく情操豊かな子ども
- ・ 健康で意欲的に活動する子ども
- ・ 身近な環境に関わり、創造する子ども

重点目標

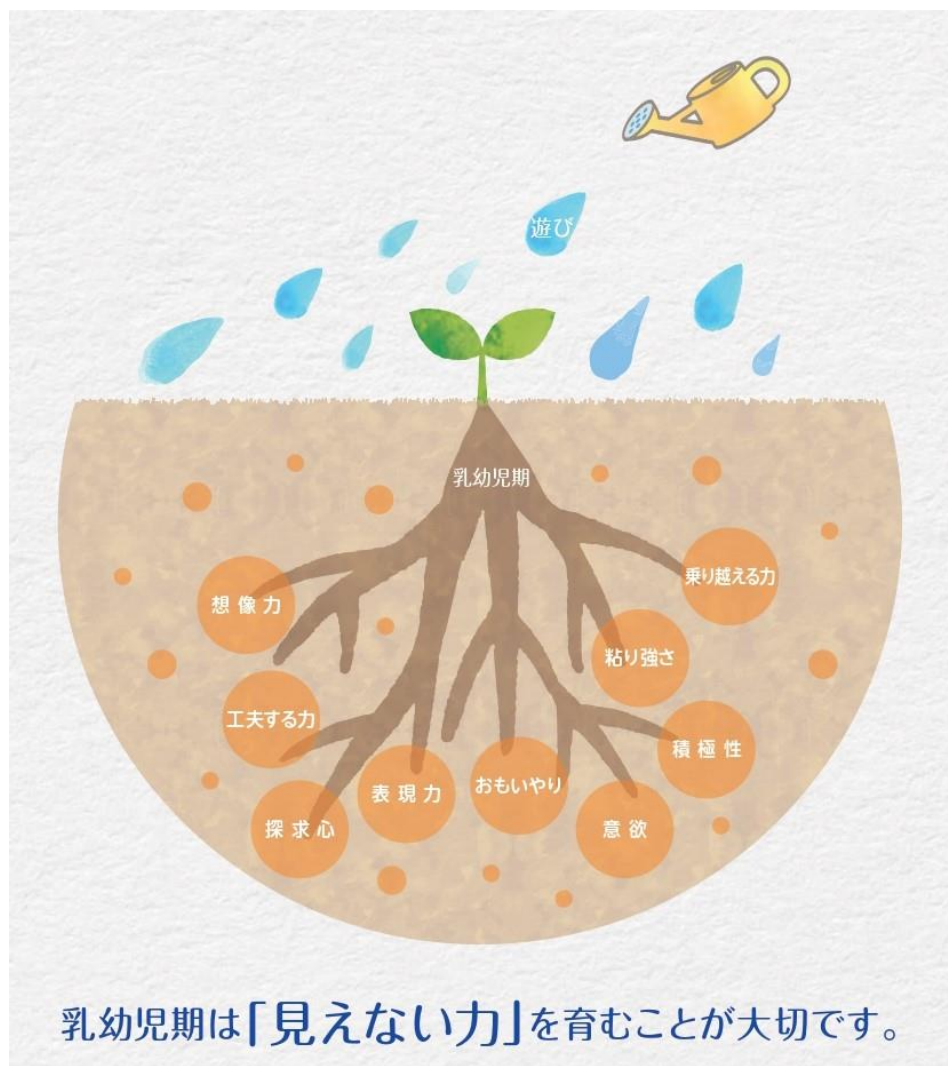
- ・ 仏教精神、特に法然上人のみ教えに基づき、行事・作法を通し生命を尊重する豊かな心を培う。

教育目標の内容

《教育目標の内容》 育自・共育 ～のびのび自分を伸ばし（育自）、なかよく一緒に育つ（共育）
二つの「育」から生まれるすこやかなからだところ～

2 本年度に重点的に取り組んだ具体的な計画や目標

- 幼稚園教育要領理解に基づく教育課程・指導計画の充実
- 安全対策の推進
- 子育て支援の充実



3 評価項目

評価項目	取り組み状況
1 教育課程・指導計画の充実 (a)本園教育課程のねらい・指導計画を見直す。 (b) 学年ごとの教育課程のねらいに基づき、子どもの姿に応じて、行事や保育の内容を見直す。	・各学年ともに、月始にねらいを設定し、月末に幼児の姿から環境構成や援助の在り方・ねらいを見直した。引き続き、教育要領で重点が置かれている社会情動的スキル（非認知能力）への理解を深め、教育要領・指導計画のねらいがその育成につながるものとなっているか確認した。 ・日々の記録において、子どもの心の動きに目を向け、そこから読み取れる心の育ちを読み取り、教員ミーティング等で報告し合い、子どもの非認知能力の育ちに対する共通理解を図った。 ・教育課程をもとに行事や保育の内容が子どもの心の育ちのためのものとなっているか見直した。また、その行事を経験することによって何を育てているのか教員間で共通理解したうえで、保護者理解を図った。その内容を R5 年度行事予定にも反映する。
2 安全対策 (a) 幼児の安全を確保する観点から、迅速に園内環境の修理・修繕にあたる。 (b)避難訓練を毎月1回実施する。 (c)新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を講じ、実施する。 (d)園内を安全に整備するとともに、令和5年度幼保連携型認定こども園への移行に向けて、0～5歳児までが安心・安全に園生活を送ることができるように施設整備を行う。	・遊具・園舎の点検を行った。老朽化の遊具等については、大学の関係部所と調整し、昨年度に引き続き、修繕（第3期工事）を行った。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学年ごとに訓練を行った。全学年での避難訓練は、感染状況を鑑み、段階的に実施した。 ・新型コロナウイルス感染症感染予防に努めた。通常保育においては、間仕切りを置いての食事・トイレ等におけるソーシャルディスタンスの確保・他クラスと合同の活動の制限等の対応を行った。保育内容においても、園外保育・水遊び等をはじめ、感染予防を考慮し、実施方法を見直した。また、感染リスクの高い長時間のバス乗車を伴う園外保育・宿泊活動は中止とした。 ・R5 年度幼保連携型認定こども園移行に向け、教員のプロジェクトチームを立ち上げ、「環境プロジェクト」が中心となり、園舎・園庭環境の施設整備の計画にあたった。
3 子育て支援の充実 (a) 園行事やクラス別懇談会において、「大切にしたい育ち」について教員と保護者が意見交換できる機会を設ける。 (b) 子育て講演会・子育てサロン・子育てトーク・おじいちゃんおばあちゃんの会を実施する。 (c)新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしながら、預かり保育を運営する。 (d)新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしながら、親子登園「いちご組」を運営する。	・園行事・クラス別懇談会などでは、各学年における「大切にしている育ち」を伝えるようにした。子どもの心の育ちを共有できるよう、保育者が保育中のエピソードを紹介した。 ・れんらくアプリで保育のドキュメンテーションを配信したことは、大切にしている育ちや保育者の関わり方を各家庭に伝える機会となった。また、保護者からもコメントをいただき、子どもの育ちを共有することができた。 ・子育て講演会・子育てサロン・子育てトークは、互いに悩みを共有し話し合う中で、保護者同士がつながったり子育ての悩みを解決する糸口を見出したりする機会となっている。 ・3 密を避けるため、預かり保育に関しては、就労等やむを得ない事情のある方のみを対象として実施した。 ・幼保連携型認定こども園に向けての園内工事に伴い、12 月以降の実施を中止とした。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価

今年度も教育目標のもと、「心の教育」の実践に取り組んできた。アンケートの結果から、保護者の方は、子どもたちの心の育ちを概ね実感しておられる。

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保育内容や行事など調整せざるを得ない状況が続いたが、本園としては、常に「子どもの育ち」にとって何が大切であるかということを、教職員で話し合いながら保育にあたってきた。乳幼児期に自己肯定感を育むことの大切さを鑑み、一人ひとりの子どもがまずは自分のありのままの思いを表出できる環境構成・援助に重点を置いて取り組んだ。また、年齢に応じて人と関わることの喜びを実感できるよう、子ども同士の関わり合いが生まれ継続するような保育の内容を意識した。

そして、懇談会やアプリでドキュメンテーションを掲示し、子どもの具体的なエピソードを伝え、どんな場面で子どもの心が動き育っていくと考えられるのかを発信し、共有できる機会をつくったことが、「子どもの心が育った」と実感する方が多い結果に結びついたのではないかと考える。

安全対策においては、今年度も、新型コロナウイルス感染予防のための保育環境整備を心掛けた。ウィズ・コロナを踏まえ、またアフターコロナも見据えてどんな状況の中でも、かけがえのない乳幼児に子どもが経験の中で自ら感じて育つ教育現場として歩みを進めたい。

子育て支援においては、コロナ禍で、保育者と保護者、保護者同士がつながることが難しい状況が続いている。しかし、子育て講演会、子育てサロン、子育てトークにおいて、「子どものありのままの気持ちを受け止めること」「周りの大人の願いを伝えていくこと」の大切さを伝えることができたことは、安心して子育てをするための一助となったのではないかと考える。

令和5年度は、幼保連携型認定こども園に移行することが決まっている。新しい運営方法になっても、常に本園の「大切にしたい育ち」を守りながら、子どもたちが多様化していく社会を強くしなやかに生きていくことのできる心の土台を育てていきたい。

5、今後取り組むべき内容

課題	具体的な取り組み方法
教育課程・指導計画の充実	・ 幼保連携型認定こども園移行に際し、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、全体的な計画・指導計画の見直しを図る。 ・ 学年ごとの教育課程のねらいや子どもの姿を踏まえ、行事の内容を見直し、令和5年度以降の行事に反映させていく。
安全対策	・ 幼児の安全・健康を確保する観点から、修理・修繕必要箇所は迅速に対応する。 ・ 幼保連携型認定こども園移行に際し、0～5歳児までが安心・安全に園生活を送ることができるように施設整備・点検を行う。 ・ 行政等の方針に基づき、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を立て、園児・保護者・教職員の感染予防に取り組む。
子育て支援の充実	・ 令和4年度に引き続き、クラス別懇談会・子育てサロン・子育てトークを、教員と保護者がともに語り合うことのできる機会とする。「幼児期に大切にしたい育ち」について共通理解を図り、保護者自身も喜びを感じながら子育てに取り組むことができるような支援をする。

6、学校関係者の評価

「子どもの心の育ち」をキーワードに、教育要領で重点が置かれている社会情動的スキルへの教員間の共通理解を図る取り組みを行っていること、継続的に遊具・園舎の点検実施に加えて幼保連携型認定こども園移行に向けて積極的な安全対策を行っていること、クラス懇談会、子育てトークなどの子育て支援の充実を図っていること

など、教育目標に対して総合的な努力をしていると高く評価できる。今後の課題としては、幼保連携型認定こども園への移行後はさらなる教職員間の密な連携を図ること、教職員をサポートするシステムの構築などが挙げられるだろう。

（佛教大学教育学部准教授）

コロナ禍ということもあり、先生方はコロナ前よりも保育以外のいろいろな仕事が増えていると思うが、保育時間は何よりも子どもの育ちを最優先に考えてくださり、安心して預けることができた。子どもの心の動きを見逃さず、寄り添い、励まし、時には見守ることに徹してくださり、成長と一緒に喜んでいただいた。子育てが孤育てにならぬよう、保護者の横の繋がりになるようなきっかけ作りにおける積極的なバックアップがあり、親も子も充実した園生活を送ることができた。

（保護者代表）